

治験を実施しています



現在、開発中の医薬品の候補（治験薬）を用いた治験を、以下の病気を対象に実施しています。参加いただいた患者さんにおけるデータを集め、有効性や安全性を確認して医薬品としての「承認」を得ることが治験の目的ですが、参加いただいた患者さんにとって良い効果をもたらす場合もあります。まずは、よく情報を得ていただきたいと思っておりますので、お気軽にお問い合わせください。

- 慢性血栓塞栓性肺高血圧症
- 心房細動
- 全身性強皮症を伴う間質性肺炎
- 多発性骨髄腫
- 骨髄異形成症候群
- 脳卒中後下肢痙縮
- 食道癌
- 腎癌
- 前立腺癌
- 尿路上皮癌
- 過活動膀胱
- 神経因性排尿筋過活動
- 子宮頸癌
- 金属アレルギー

ご協力をお願いします。



問合せ：
臨床試験管理センター
tel.088-633-9294

ちけん君は
日本医師会
治験促進センターの
キャラクターです。

病院のお仕事いろいろ



患者さんと
ご家族の決断に
寄り添える緩和ケアを

がん看護専門看護師
看護師 緩和ケアセンター

松岡由江（まつおか よしえ）さん
看護師

松岡看護師は12年に渡るホスピスでの勤務経験の後、更なるステップアップを目指して4年前に徳島大学病院に来られました。広い視野で物事を見るためにはより専門性の高い資格を取ることが必要だと感じたそうです。そこで徳島大学病院での勤務を決断し、同時に大学院への社会人入学も決意しました。2年間の院生生活では、他の分野を極めている看護師たちと意見を交わす機会があり、自分の経験したことのない立場からの意見を知ることができました。職場の支えがあり、院は無事に2年間で卒業することができました。同時に「がん看護専門看護師」の資格も取得しました。

徳島大学病院では、それまで経験のなかった治療期の患者さんのケアに携わり、急性期病院としての役割や苦勞を知ることができたそうです。「がんという病気と闘う中で感情の揺れ動く患者さんとその家族に、そのときそのときの決断が『最善であった』と思っていただけのように寄り添えたい」と語られました。

「今は社会のかたちが変わっていている過渡期。病床数は減少傾向にあり、将来的にターミナル期の患者さんは家で療養するかたちになる傾向があります。拠点病院として地域の病院との連携を強め、患者さんがスムーズに自宅療養を始められるよう調整ができる仕組みづくりを始めています。」（松岡看護師）